

# 会議録

## 1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議（第3回）

## 2 開催日時

令和3年8月24日（火）午後2時00分から午後4時00分まで

## 3 開催場所

オンライン形式（Zoom）

## 4 出席した者の氏名

- (1) 構成員 西村幸夫、石田芳弘、佐分晴夫、服部敦、梅川智也、靱山貢、高橋秀治、小川征一、川義満、柴田浩行、久世高裕  
(順不同・敬称略)
- (2) 執行機関 新原観光課長、小池観光課課長補佐、小澤観光課主査補
- (3) 関係課 歴史まちづくり課、産業課、環境課  
(別室にてモニター視聴)

## 5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 報告事項
  - 1. 令和元年度の検討成果 (資料1)
  - 2. 令和2年度の検討成果 (資料2)
- (3) 協議事項
  - 1. 今後の進め方について (資料3)
  - 2. 戦略の構成について (資料4)
  - 3. 戦略の体系整理（基本コンセプト、基本理念、将来像、基本方向）について (資料5)
  - 4. 重点プロジェクトについて (資料6)
  - 5. その他

6 傍聴人

0名

**【資料】**

(資料1) 令和元年度の検討成果

(資料2) 令和2年度の検討成果

(資料3) 今後の進め方について

(資料4) 戦略の構成について

(資料5) 戦略の体系整理（基本コンセプト、基本理念、将来像、基本方向）について

(資料6) 重点プロジェクトについて

7 内容  
事務局

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより、「第3回犬山市観光戦略会議」を始めさせていただきます。

新型コロナウイルスの影響で策定が延期となり約1年5か月ぶりとなる犬山市観光戦略会議ですが、愛知県においても先日まん延防止等重点措置が延長され、まだまだ全国的にも厳しい状況が続く中であります。そのような中、今回はオンラインでの開催とさせていただきます。皆様におかれましてはご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。

本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間、16時までに終了とさせていただきますと考えています。

それではまず初めに、西村会長よりご挨拶をいただきたいと思っております。お願いします。

西村会長

西村です。今日はよろしくをお願いします。

残念ながら、こういう形で実際にお会いして議論することができなくなってしまいましたけれども、事情が事情なものですからお許し願いたいというふうに思います。

こういうご時世で、いろんなところでオンライン化が進んでいますので、委員の皆様方も慣れていらっしゃると思いますけれども、この会議そのものをオンラインでやるのは初めてですので、事務局も含めてどういうふうになるかちょっと不安なところもありますが、進行がちょっとうまくいなくてもご容赦願いたいと思います。

この後、ご発言されるときには手を挙げていただくか、リアクションボタンで挙手を押していただいて合図していただければ私のほうで指名しますので、よろしくをお願いします。

この戦略会議なんですけれども、コロナがあって1年策定を延ばして3年目に入っているわけです。今年中には何とか取りまとめたいということもあって、こういうタイミングで開かせていただくことになりました。

この間、専門部会のほうで7回も会議を開いていただいて、服部先生の部会長の下にやっていたものですから、随分基本コンセプトや方向性がまとまってきているのではないかと思います。それを基に今日ご議論いただいて、今日を含めて3回議論をして最終的に取りまとめようと思っております。というので、最後は恐らく全体としての確認をすると、了承をするという場になると思いますので、実質的な議論は今回と次の会議、多分11月ぐらいになると思います。だから、そこでご自由に発言して、その中に盛り込んでもらいたい

と思います。

事務局

先生、ありがとうございました。

ここで、各機関で人事異動で2名の委員の変更がありました。紹介させていただきます。

まず、名古屋鉄道株式会社、岩瀬様から靱山様にこの戦略会議の委員に就任いただきました。

靱山様、一言お願いできますでしょうか。

靱山委員

名古屋鉄道の靱山でございます。よろしくお願いいたします。

私、専門部会のメンバーとしてずっと関わらせていただいておりますので、今回の内容は承知しておりますので、皆様といい議論ができればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

次に、愛知県観光コンベンション局の武田様から観光推進監の川様に委員に就任いただきました。

川様、一言お願いします。

川委員

愛知県の川でございます。この4月から観光推進監ということで、今、コロナの対策等を含めて対応しております。

愛知県は昨年度に観光戦略を新しくつくったところでございますが、犬山の戦略もウイズコロナ、ポストコロナを見据えてということになりますので、足並みそろえて連携してということでやっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

なお、本日事務局に今年度の観光戦略策定支援業務委託の受託者である株式会社国際開発コンサルタンツが参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、本日、委員総数 11 名全て出席いただいております。委員の過半数の出席があるということで、会議が成立していることを報告いたします。

次に、本日の会議は公開で開催します。

今回はこのウェブ開催の様子を犬山市役所 206 会議室にてモニター公開させていただいております。傍聴の方は、撮影について自席からの撮影と、あと録音は個人のメモとしての利用に限り認め、切り取って公開することはやめて

いただくという扱いとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

会議の内容につきましては、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

会議録につきましては、2人の委員が署名することとなっております。今回は靄山委員と高橋委員にご署名いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、議題に移る前に、事前に配付させていただきました資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局

以上となります。

今回はオンラインでの会議になるため、事務局から該当資料の画面共有もさせていただきます進めていきたいと思っております。

また、発言時以外はミュートにさせていただくようご協力お願いしたいと思っております。

それでは、議題に入らせていただきます。以降の進行は会議規則に従い、西村会長をお願いいたします。

西村会長

それでは、まず最初に報告事項に入りたいと思っております。資料1「令和元年度の取り組み内容」、資料2「令和2年度の取り組み内容」、を事務局にまとめて頂きたいと思っております。また、報告資料3「令和3年度犬山市観光戦略策定スケジュール」以降の本日の協議事項についても説明をお願いします。

(事務局説明)

西村会長

ありがとうございます。

大変いろんなことを議論していただいた、特に専門部会でいかに広い議論がされたかというのがよく分かる感じがします。

ということで、皆さんに質疑を受ける前に、専門部会の服部部会長のほうから何か補足があればやっていただいで、それでディスカッションに入りたいと思っておりますけど、服部先生いかがでしょう。

服部委員

では、皆様のご議論の露払いをさせていただきたいと思っております。

部会のご報告というか、部会を通じて考えたことを少しだけお話させていただきたいと思っております。

その前にこの部会、かなり数多く熱心な議論をしていただきました。部会の委員の皆様、ここで改めてお礼を申し上げておきたいと思います。それから、我々部会の委員からもかなり暴投ぎみの高い球とかそういうものを事務局のほうしっかり受け止めていただきまして、かなり前向きにアグレッシブにまとめていただいたかなあというふうに思っております。事務局にも感謝申し上げたいと思います。

この部会での議論を通じまして、感じたこと2つ申し上げておきたいと思います。

1つは、やはりコロナの議論をしている過程で、このコロナというものはかなり本質をえぐり出すものだなあというのを改めて感じました。やっぱり大事なものは大事じゃないか、大事なものを大切にしていなくて困ったことになるよというようなことが、かなりはっきりしてきたんじゃないか。どこの観光地を見ても、浮ついたところ、大事なものを大事してこなかったところがかなり困ったことになっているということではないかなと思います。

先日、不要不急じゃない用で沖縄に止むを得なく行ったんですけども、国際通りを見て、やっぱり今の惨状を見るとあまりの惨状に唾然とします。国際通りがほぼ80%シャッターが閉まっていて、県庁の角のところはコロナの検査センターに変わっているというのが、その光景を見た瞬間に沖縄のこれまでの観光のやっぱり真ん中のところが大きくがらがらと崩れている。そこに向けて、国際通りの沿道の方々も含めて、新しい観光づくりというのをしないといけないと大きくかじを切っているという時代かなというふうに思います。

そういう意味で、このコロナの時期を経た我々というのは、やはり犬山の観光についても何が大事なんだろうか、そういうことも考えながら、今ある大事な財産を先にどう生かしていくかということも含めて考える大切な機会なんじゃないかと思います。

ちょうど今年、吉田初三郎さんの図集が刊行されていて、そのど真ん中に犬山の日本ラインの絵が載っています。この絵を見ると、やっぱり心を打たれるわけですね。まさに、犬山遊園から今渡にかけての絵がしっかり描いてあって、そこにいかににぎわいがあつたかというところがやっぱり犬山の観光の原点で、犬山の本質を考えるということの一つにはやはりその原点とは一体何だったんだろうか、犬山の観光はどこから始まって今、我々はそれを受け継いでいるんだろうかとしっかり考えて受け止めようというのが重要かなと。これをまた委員の皆様のご議論に、ぜひそれを生かしていただければと思います。

もう一点だけ、この部会の議論を通じて、やはり委員全員で大事だなというふうにお話をしていたのは、これからの推進体制だろうということはかなり何度も何度も議論しました。この推進体制をどうしていくのかということについて

て、やはり親会議でもいろんな形でご議論いただければというふうに思います。

熱心な議論の成果として、かなりいい絵が描けそうな可能性が出てきて、会議のほうでしっかりもんでいただければいい絵が描けるんじゃないか。一方で、そのいい絵が本当にちゃんと着地して現実のものになっていくためには推進体制が必要で、この推進体制をどうしていくのかということをやはり今の時点でしっかり議論をして、委員の皆様から必ずしも戦略の中に全部書けるわけじゃないんですけども、そこに向けての議論を始めていただいたり、また叱咤激励をしていただくということは非常に重要なのかなというふうに思います。

体制というのは2つありまして、1つは市役所の中の体制です。観光戦略は非常に幅広いもので、観光部局だけでできるものではなくて、大抵いつも観光の仕事をしているとそうなるんですけども、観光が旗を振っても他がついてこないということは結構ありまして、文化財とか商工とか建設とかいろんなところがお付き合いいただかないとできない非常に全市的なものなので、そこに向けてどう庁内体制を整えていけるかということに対して議論していただいたり、叱咤激励をいただいたりするのには必要かなというのが1つと、もう1つは、庁内にとどまらず市内全体で様々な立場の人がこれから連携していかないと本当のコンテンツができないということがあります。

そこに向けて、今もちろん観光協会、商工会議所さん、それぞれいろんな形で頑張っておられて、いろんな主体が頑張っておられるんですけども、そこをいかにうまくつないで全体の体制にしていくのか、新しいコンテンツを生み出すための人づくりとか体制づくりというのがやはり重要になってくるので、そこに向けた議論というのがさらに必要かなということを感じております。それらの点も大きな論点になっているということを踏まえていただいて、親会議のほうでもご議論いただければというふうに思っています。以上です。

西村会長

どうもありがとうございました。推進体制についてきちんと議論してほしいということです。

それでは、ここからは古いですけども、全体として議論しないといけないのは、資料5、6が中心になるわけですが、基本コンセプト、それから推進体制、全体の体系、重点プロジェクトとだんだん具体的になっていくので、できれば大きいほうから小さいほうになるように、相互に関連しているので難しいんですけども、あまり最初からプロジェクトの細かい話をしちゃうと全体が見えにくくなるので、大きな話から徐々に具体的な話にという感じでコメントやご意見をいただければなというふうに思います。いかがですかね。

私、一応ちょっと一番最初に単純な質問なんですけれども、この戦略というのは最終アウトプットというのはどんな形になるんですかね。それは、例えば資料4の3ページとかに過去の例が書いてあるんですけど、こんな体裁みたいなものになるということですか。それぞれのページでスタイルが全然違うので、一体どんなものかというイメージがちょっと湧かないんですけどね、その辺ちょっと事務局のほうで最終アウトプットのイメージというのはどういうもので、例えば資料4の3ページみたいなのが10ページぐらいついているような文書なのかどうかとか、何かその辺のイメージってありますか。

事務局

ありがとうございます。事務局でございます。

観光戦略については、最終的にアウトプットの媒体としては、まず紙媒体での冊子をイメージしております。それから、概要版といったようなものもA3二つ折りのもので簡単なものを概要版として作り、皆さんにご覧いただくというような予定をしております。

戦略の構成については、資料4の1ページ目、それから2ページ目にありますが、これが言わば目次のような形になりまして、この各項目ごとに順々に必要な事項を記載していったって、最後に資料編ということで、令和元年度から実施したデータの収集といったようなことを分析、そういったものも資料として添付するという形になりますので、なるべくコンパクトにしたいなと思いつつも、気持ちもいろいろ多くていろんなものを入れたくなってしまうので、結構分厚いものになってしまうかもしれませんが、そういった部分もまた出来上がっていく中でこの会議で皆さんに見ていただければと思いますので、そこもまたご議論いただければと思います。一応、冊子ベースでこの資料4の目次の内容を列挙していくというようなイメージでございます。よろしく願いいたします。

西村会長

ありがとうございます。

資料4の1ページから2ページに目次があつて、3ページから一応本文みたいな形になっている、こんな感じのものになるということですね、大体の体裁というものは。

事務局

そうですね、そういったような形になります。

西村会長

分かりました。いろいろ今、図面の形だったりいろんな形になっているものは、最終的にはこういう形の図案と文章で構成されるようになるという感じですね。



それでは、いろいろあるとは思いますが、何でも結構です。音声が途切れる  
かもしれませんけれども。

大丈夫でしょうか。何かあればと思いますけどいかがでしょう。

石田会長、お願いします。

石田委員

僕は、犬山祭保存会の会長の立場でこの会議に参加させていただいておりますので、その立場中心に申し上げます。

特に、これ西村先生がユネスコの無形文化遺産として日本の祭りを登録して  
いただいた一番日本のトップですから、そこに焦点を当てて意見を言いますけ  
れども、観光の流れとして体験型観光という考え方がありますけれども、やっ  
ぱり犬山へ来ていただいた観光客が体験をする、ものすごい一番いいケースだ  
と思ひましてね。犬山祭に参加してもらえるような仕組みをつくっていこうと  
思っています。

そこで初めに、ちょっと順序が逆になりましたが、この今日の資料を読ませ  
てもらってとてもうまくできていると思います。特に、犬山の観光の歴史のず  
っと分析なんか、なるほどと思うところがありましてとてもいいんですが、犬  
山祭と犬山の城下町の町並みが一体なんですよ。この犬山の城下町があつて犬  
山祭が存在していますし、犬山祭を持続させることが城下町の今の景観を持続  
することになるとも思ひまして、そういう観点からやっていますけれども、ち  
よっと今日は水景だとか景観というのがキーワードですが、城下町の景観をも  
う少しブラッシュアップさせて持続させるためには、もうちょっと規制を加え  
なければいけないという感じがしてしようがありません。

例えば、電柱の埋設なんかもまだちょっと足りません、あれでは。城下町の  
エリア全体の埋設をすとか、城下町の景観をもう少しレベルが高いようにす  
るために規制が必要だなど、私常々思ひましてね。その中で、犬山祭が  
ユネスコの無形文化遺産として、このすばらしいブランド力が持続できていく  
のではないかなと、こんなふうに思ひしております。

そして、やっぱり犬山祭と犬山城下町の一つの価値観はスローライフだと私  
は思ひているんですけどね。この今日の報告書を見ると、中央リニア新幹線と  
いう単語が何遍でも出てきますけれども、中央リニアとは対極にあるスローな  
んですよ、犬山祭と犬山城下町の魅力は。そういう価値観も、どこかでうたっ  
てほしいなという感じがしています。

それから、水景。服部さんの価値観で出されて、とてもいいと思います。服  
部さんも犬山のお生まれでふるさとの愛情が感じられまして、この水景という  
価値観には。ただし、私は今、木曾川観光の社長をやっております、物すご  
く危機感を感じています。

それは、このところ数年来、台風、それから今年もそうですが集中豪雨、一言でいうと自然が物すごい脅威になりつつあります、景観だとかそういうことよりも。ですから、従来の鵜飼いだとか川下りが従来どおりの手法では、私は持続不可能だという気がしてしょうがないんですよ。ですから、そのところを捉えてどういうふうに、ちょっと方向を変えていかないと、犬山の木曾川を使った観光の方向性をちょっと地球環境問題に合わせて変えていかないと、単に伝統を守るとか木曾川はすばらしいだけでは観光としてはなかなか難しいという気が実感としてあります。まず、船頭だとか鵜匠がほとんど持続不可能です。ですから、犬山の鵜飼いは日本の鵜飼いの中で特筆すべき、犬山市の公務員が鵜匠をやっていますからね。こういう点では、日本のモデルになるんですけれども、しかし、次の世代を育てないととてもこれは持続不可能だという実感を持っています。そんなところですね、以上です。

西村会長

ありがとうございます。

今の点は、非常に重要な点ですよ。例えば、景観の問題で三景というのは景観なんですけど、規制がかけられないで言っているだけだと何が変わるのかというふうに多分市民の側からも言われるかもしれないし、そしてまた今のお話のように持続可能であるために何か手段をやらないと、なかなかそうならないんじゃないかという危機感があるということなんですけど、いかがですか、その点に関して何か。

ご意見なので、少し意見をいろいろ出していただいて、それで市のほうでも、もし何か答えることがあれば後で答えてもらうということでもいいですかね。すぐに答えというのもなかなか難しいかもしれませんが、すごく重要な問題で。特に、本当にこの後、じゃあ何をやるんですかと、それがこの重点プロジェクトだと何かすごい点のプロジェクトになっているんだけど、今のようなもう少し規制を、景観を守るためには何か面的に仕組みとしてやらないといけないというのひょっとしたら重点的なプロジェクトになりますよね。それとか持続可能なものに関してとか、そういう問題もあるんじゃないかという問題提起でもあるように思いますね。

発言がある方は手を挙げていただければと思いますけど、いかがでしょうか。

久世委員、お願いします。

久世委員

非常によくできているというか、すごく練られたプロジェクトとか構想案だなあと思いました。ただ、感じたのは、今やっていることとのギャップがかなりあるなというふうに思っています。というのは、今、観光キャンペーンでや

っているのは、春、夏、秋とある意味放っておいても人が来る時期にお金をかけてわざわざキャンペーンを打っていて、特に平日に来てくださいという呼びかけもなく、土・日、特に日曜日に集中して観光公害のようなことを引き起こしていたというのがコロナ前の話だと思います。

ここに、素案に書かれていることはある意味真逆の方向ですので、僕はそれをずっと議会でもそうするべきだと言っていたことが書かれているので非常にありがたいというかすばらしいなと思うんですが、じゃあ、今やっていることをやめるという意味決定が本当にできるのか。それから、それは市と観光協会と、あとそれに関わっている店舗の皆さん、僕が経営している店舗はキャンペーンには入っていないんですよ。ただ、コロナ禍で厳しい厳しいと言われながら、実は結構好調なんです。だから、いわゆるキャンペーンの成果というのは僕自身検証していたつもりですが、あまりないというのが実感です。それをどうやって変えていくのか、そのコンセンサスをどうやって共有するのかということが非常に重要ではないかなあと考えています。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

その点はちょっと市のほうにも答えてもらいたいと思いますけど、今現実にそのキャンペーンが行われているのと、ここで戦略で少し次元が違う話をしようというのはどういう関係にあるのかと。ここで何かを打ち出したら、それに伴って市のそうしたキャンペーンの戦略みたいなものも変えるということになるのかと。つまりこの戦略と具体的な施策との関係ですね。どうですか、その点は少しきちんと答えてもらったほうが良いと思いますけど。

事務局

ありがとうございます。事務局です。

キャンペーン自体というのは、今すぐやめるというような予定はございません。キャンペーン自体は一つの宣伝活動になりますので、そういったものは継続はしていくんですが、今回この戦略全体に通底しているものの一つとしてコンテンツを充実させていく、中身をしっかりと整えていくということが重要ではないかというところがございます。それは、犬山三景にもつながってくるんですが、というところが大切にしてしっかりやっていかなければいけないと。

宣伝活動が、かなり重点的にやっているというところはもちろんございますが、その宣伝活動に加えて、言わば車輪の両輪のような形でコンテンツも充実させていくと。さらに、その2つを回していくのに、何度も先ほどから申し上げていますが、観光まちづくりですので、観光によって地域を持続可能なまちにしていくというところが重要ではないかというふうに考えておりますので、今後キャンペーン自体もまた内容ですとか打ち出し方というのはいろいろな

工夫が必要だと思います。ですが、それに加えてコンテンツの充実といったようなところというのは打ち出していかなければいけないなというふうを考えております。以上です。

西村会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。  
どうぞ、久世委員さん、お願いします。

久世委員

既存でやっていることに加えてコンテンツを重視ということで、先ほど服部先生がおっしゃっていたようにやることをどんどん増やしていくと推進体制がそれで十分なのかと、誰がやるのかというマンパワーのこともありますんで、予算のこともあります。だから、やるべきこと、やめるべきことをしっかり判断するのがこの戦略会議の役割ではないかなと思います。以上です。

西村会長

ありがとうございます。全くそうだと思います。  
基本コンセプトをここで固めて、それと全然違うことをやっていたら何のための基本コンセプトか分からないので、ここで決めたらそっちの方向になるようにキャンペーンも方針を、すぐにというわけにはいかないかもしれないけど変えてもらうというのが基本的な考え方じゃないですかね。  
ほか、何かありますでしょうか。

佐分委員

名古屋経済大学の佐分です。よくまとまっていて全体として最もだと思います。にも関わらず、それではこれで何が出来るか、どうやったらイメージが変わるかというところが私には今一つ自信がないところです。というのは、書かれている多くのことはすでに皆が気が付いていてですね、何とかならないかと言っていた問題が多いので、これはレポートに書く必要はないんだけど、少なくとも共有しなければならないのは、なぜそれが出来てこなかったのかということ进行分析し共有する必要があるんじゃないかというふうに思います。例えばですね、古民家の利用、それらの消滅を防ぐという話はしばしば出るけれど解決策が見つからない。規制をかけるっていうだけではなかなか上手くいかないと思うんですけど、そのような問題があるということを感じます。  
一番最初に指摘されたことが非常に重要で原点回帰という形で指摘をされましたけれど、私は今観光が長続きしていくためにはやはり本物を大事にしていることが重要だと思うんです。それで犬山はその点では実に恵まれていて、お城も本物ですし、石田さんが言われたお祭りも本物ですし、それからテーマパークも明治村やリトルワールドにあるものも本物なんですよ。移築されているとはいえ。従って、そういう本物があるということに常に意識してやってい

く必要があるというふうに思うんです。その点で石田さんが先ほどおっしゃられたことに関連するんですが、私も実はですね、木曽川がないと犬山がないと思うんですが、木曽川がやはり従来と随分違う形になっていてそれをどう直していくかということの本物だということを活かしながらですね、どうしていくかが重要じゃないかと思っています。例えば、私は石田さんのように革新的には考えられないんだけど、鵜飼をやるそこでどうやったら本物の鮎が捕れているのか、鮎をなんとか名物にしようという指摘があるが、かつては大変な名物だったらしいけれど、養殖でぶくぶくの鮎をね、出しても長くは続かないというふうに思うわけですし、本当はライン下りも復活させてほしいと思うんだけど、本当に木曽川らしい流れがあつてそれを観光として楽しむというようなものをですね、もう一度どうやったら復活させるかを考えていく必要があるんじゃないかと思います。犬山市の観光戦略だから限界はあるかもしれないけれど木曽川を考えてもですね、他の観光を考えても周辺の市町村との関わりが非常に重要だと思います。例えば戦略の中に、守口大根ですか、あれが出ましたけど作っているのは扶桑町だと思いますし、それからこれ、私は本当に残念だけれど木曽川の水を使った日本酒は犬山市内では作られていない。だから周辺もですね、その伝統を引き継いで作ってるわけなんだけれど、少しそういう意味では範囲を広げて、元々犬山と周辺地域は経済的には一体で周辺地域の産物を集積し消費するというような役割を担っていたわけだから観光の多くはですね、そういう観点で考えていただいた方がいいのではと思います。

西村会長

ありがとうございます。

周辺のことも少し考えないと、特に木曽川のような大きなことを言うと犬山だけでは完結しないんじゃないかと、いろんな産物も含めてですね。どうですかね、この点に関しては。市のほうは何かありますか。

事務局

ありがとうございます。

そうですね、犬山市、先ほどの観光資源をマップでプロットしていく作業を今進めつつありますというお話をさせていただきましたが、あちらは広域から始まって準広域、それから犬山市全域、最後が城下町となっています。そういった面でも、観光というのは自分自身の体験もそうですけど、どこかに遊びに行つてその一つの市だけ行つて帰るということはなかなかなくて、やはり周遊すると。そういう意味では、犬山市だけではなく近隣の市町村との連携というのは非常にこれからも重要になってくるなというふうに考えております。

そうした取組の中で、今、長年来やっているのが隣の各務原市との連携事業ですとか、あと少し広がって岐阜県さんが音頭を取っていただいている取組で

すが、木曾川の中流域での取組なんかも始まりつつありますので、そういったところから共同でのコンテンツづくりですとか、そういったものを進めていけるといいなと考えております。

すみません、具体性が今あまり乏しいですが、方向性としては以上になります。

西村会長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか、この点。少し課題として考えていただいて、今回全てが解決しないにしても残された課題とか、もう少し広域的なこともどこかにうまく書いて、広域で今動いているところにも声かけられるようにするというのは大事じゃないかというような気がしますね、確かに。

ほか、いかがでしょうか。何かございますでしょうか。

あと、私は外の人間からすると三景といって水景、城景、緑景と言われて皆さんピンときますかね。ピンとくるのであれば何も問題はないんですけど、例えば犬山祭が犬山の代表じゃないかと思われると何か景観だけ名なしでいいのかみたいな、全然違うことをコメントされると、ちゃんとこれディフェンスしないといけないんですけど、大丈夫でしょうかね。その辺はどう考え、地元の方がすとんといくのであれば、全然私は心配しないでもいいんですけど。大丈夫ですかね。

佐分委員、お願いします。

佐分委員

まちづくりとして非常に良いんだけど、私はその本物の物作りとか伝統というものがね、これでちゃんと上手く含まれるというふうに意識されるどうかは少し気になるところです。

西村会長

なるほどね。少しそういう物作りとかそういうものをうまく連想させるような仕組みをどこかに入れておいてほしいと。単に、見た目みたいな感じで思われないようにしないと少し薄っぺらいものになったらもったいないですよ、せっかく議論してもらったのに。

ほか、どうですか。少し、もうちょっと具体的なほうに移っても構いませんけれど。

先ほど、服部部会長のほうから推進体制のことがありましたけれども、恐らく推進体制に関して何かもうこういうものを発揮するときに動かしていくとか、みんな役割を持って何か動いていくということにしないと、コロナが終わってみんな忙しくなったら、それどころじゃないみたいになりかねないという気もするんですよ。それは何か具体的に、ここでは戦略として出すけど、

それを進めるためにはもうすぐにこういうことが手が打てるんですみたいな、そういう議論はやられたんでしょうか。部会の中ではどうですか、その辺に関して。

どうぞ、服部部会長。

服部委員

推進体制については、梅川先生からもアドバイスがありまして、DMOの話もいろいろと共有して議論しています。やはり、今の体制が決して悪いというわけではないんですけれども、DMOという観点から見たときに必要な機能が犬山の中にあるのだろうかというところはもう一回しっかり議論してもらって、その機能がないところを補っていくということは早いうちに議論を始めておいていただかないといけないんじゃないかというような話は出ていたかなと思います。

例えば、体験メニューを構築していったり、それから特産品を作ったりと本質に根差したものづくりをしたり、本質に根差した体験というのをしてもらうというときには、いろんな人に関わってもらって、それをうまくマネージして商品にしていかなければいけないわけですけども、そういう意味での観光というのと、ある種のキャンペーンを打って宣伝をして誘客するという観光とは大分体制としては違ってくるので、そういう意味ではこれまで機能として必ずしも充実されていなかったところがあるとするならば、その機能強化というのを早いうちから議論をして現実化していくということが必要なのかなというところがかなり重要な論点かなと思います。

西村会長

梅川先生、今お名前が出ていましたけれども、何か補足ありますか。

梅川委員

ありがとうございます。

私も、専門部会のほうで何度も議論させていただいて、そういう意味ではいろいろ考えさせていただいたんですけども、この1年間策定を遅らせた意味、意義というのをやっぱりきちんと出さなければいけないなというふうに思っていて、その一つがやっぱり犬山観光を担う担い手の多様化みたいな話、これ結構重要だなというふうに思っていました。

今までは、やはり名鉄さんはじめとする企業が主体になってこられたと思うんですけども、今回はまちづくりという観点を強く打ち出して、それで市民の方含めて多様な方々と一緒になって犬山観光を支えていくんだという方向性が明確に出てきたということが非常にいいなと思っていて。

初年度に、たしか小池さんが随分やられていたと思いますけれども、市民の皆さんと観光まちづくり会議みたいなのをやって、少しずつ巻き込んでいくと

というようなこういった流れ、動きの延長みたいなことを少し考えながら、多様な主体でやっていくというのが今回改めて打ち出されてよかったなというふうに思っています。

もう一個は、やはりさっき服部部会長からもお話あったDMOという、DMOのポイントは何かといたら、やっぱりきちんと勘と経験だけではなくて数字に基づいて行動を起こすという科学的なアプローチをしようよというところだと思うんですね。そうすると、今ビッグデータみたいなものもありますし、かなりデータもいろいろ取れると思っていて、そういったデータをきちんと把握しながら間違いのないしっかりした施策を打っていくという、その科学的なアプローチというところがこれから求められるんじゃないかなということで、そんな議論も部会の中でさせていただいたというふうに考えています。

これからなんですけれども、今回は議論できて話題にはなっていないし、それから部会でもまだ議論していないんですけれども、目標をどう設定するかという数値目標の話ですね。これから専門部会でも多分議論していきなきゃいけない話題だと思うんですが、もし時間がありましたら数値目標の考え方なんかも親会議のほうからアドバイスをいただけるといいかなと思っていまして、私はもう単に数字を、観光客数を増やすというような数値目標ではなくて、犬山らしい数値目標、KPIというんでしょうか、徹底するべきじゃないかなと思って、やっぱり市民のこういった観光まちづくりに対する参加度とか、あるいはお客さんの満足度とか、そういった質的なところをちゃんと目標にすべきじゃないかと思うんですが、それもこれからの課題かなというふうに思っていまして、もしそういったところで親会議の委員の先生方からアドバイスいただくとありがたいなというふうに思っていました。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

梅川先生、1つ質問なんですけれども、そういうふうなKPIとか、またDMOの、梅川先生は日本中のところと詳しいわけですけど、何かモデルになるとか参考になるような例みたいなのがありますか。そういうのがあると、何か我々もイメージができそうな気がするんですけど。

梅川委員

実はあんまりないです。観光庁が、実はDMOの要件ということで5つぐらいの指標を取れというふうに指示しているんですね。それ、どっちかというところとやっぱり観光の経済的な消費額だとか、それから観光客数だとか、そういった数量的なことばかりなんです。だから、ちょっとそれだけでは特徴が出ないというのがあって、やっぱりそれぞれ地域によってKPIって変えて僕はいいと思うんですね。その犬山らしいKPIというのをぜひ検討してみたいな



というのが私の発言の趣旨でした。

西村会長

ありがとうございます。結構要求水準が高いということですね。  
ほか、いかがでしょうか。  
靱山委員、お願いいたします。

靱山委員

名鉄の靱山です。よろしくお願いいたします。

ちょっと今までの議論とは違う話になってしまうかもしれませんが、戦略という限りは、やっぱりほかのところとの競争というのは当然意識しなきゃいけないと思うんですけども、今回のコンセプトは水景、城景、緑景なんですけれども、はっきり言って、多分これどこのまちにもあるような部分が多いかなという気がしまして、ここを犬山の独自性というか、この3つがそろっているという部分をどういうふうに戦略の中に盛り込んで、犬山の独自性というところをはっきり打ち出すような格好じゃないとちょっと。

例えば、愛知県内であればいいのかもしれないですけども、広域からのお客様なんかに認知してもらおうという意味では、その辺の犬山の独自性をもうちょっとはっきりした何か、私はちょっとアイデアないですけども、そういうものが具体的に示せるような内容になってくるとより具体的なその先の戦略が見えてくるんじゃないかなという気がしております。

それから、資料5の最後のA3の体系図というか、まとめの8ページの表なんですけれども、以前私、部会にいるときにもお話したと思うんですけど、あまりにターゲットが網羅的というか、これは日本に住む外国人も含めて全てを対象にしているような部分もありますんで、これ具体的な施策に落とし込んでいくときには当然考えていかなきゃいけないと思うんですけども、この中でも、できるだけ何をまずやっていくかというような優先順位がちょっとはっきりしていないと全体的にぼやけてしまうような気がして、こういう市全体の取組なんでなかなかここはというのはないかもしれませんが、ターゲットについても優先順位、やっていくことについても優先順位というのがこの今回の戦略の中である程度示されてきたほうが、より具体的な施策を考える上においてもはっきりしてくるんじゃないかなというふうに思います。

ターゲットもセグメンテーションしていますけれども、この人たちがどういうニーズがあってどういうものをこの犬山に求めているかというのが、この望む形との間にあってもいいんじゃないかなという気はしております。

すみません、ちょっと散文的なお話になりましたけれども、今回の資料を見させていただいてそんなようなところを感じているところでございます。以上です。

西村会長

ありがとうございます。これも非常に重要な指摘ですよ。

恐らく地元の人にとって三景は分かるかもしれないけど、外部の人間に対して訴求力という意味からいうと、何かもう少し説明をしないと分かってもらえないんじゃないかと。そこをどう考えるかという話と、それから先ほどの体系整理なんですけれども、これ資料5の最後のページですね。A3の体系整理のターゲットがたくさんあるけれども、何か非常に総花的に受け取られてしまうのではないかと。もう少し優先順位とか、まさにターゲットというものがあて得るのではないかというご意見だと思いますが、何かその辺についてどうでしょうか。

はい、石田委員どうぞ。

石田委員

それは僕は、今回の戦略の一番原点はインディゴだと思うんですよ。この資料を読んで、犬山の観光の歴史的な経緯、これ誠にうまくまとめられています。僕なんか全くそのとおりだなと思うところがあるんですが、今度一つの大きな波が来たのはインディゴだと思うんですよ。私のリサーチしたところでは、インディゴというのは欧米の観光客を呼ぶと、しかも長期滞在型の。そして、ある程度所得の高い人を設定した戦略だと聞いているんですが、それ犬山では初めてなんですよ。インターコンチネンタルというのは、日本で2号目に犬山を造るわけですね。そこで、犬山の従来の観光の全く次元の違うゾーンに入っていくんじゃないかなという気がするんですよ。

それに続いて、じゃあみんなに対応していこうと。これまさに時代背景の大きな流れだと思うんですよ。そのためには、アジアの人たちは日本へたくさん来ます。しかし、アジアの人たちの関心はディズニーランドとか、ああいう面白いテーマパークですが、しかし、欧米の人たちはそういうのじゃなくて、本当に日本の文化を見たいというふう聞いてます。ですから、そこにはやっぱり神社だとかお寺だとか、東洋の伝統的な、それで祭りですね、日本の伝統的な祭り。それから、黒瓦の連帯する城下町、木造の建物、そういったものに異質の文化を感じるんじゃないかと思うものですから、それに犬山はぴったりだなと思っているわけです。

それから川も、私も大抵世界中の川見ましたけど、やっぱり日本の川は欧米の川とは違います、急峻で水も青いし。ですから、そういう欧米の人にとって異質のものが犬山にある、それを今度の機会にやっぱり我々も多様性を知ろうという改革じゃないかなと私は思うんですよ。

ですから、そこで僕はさっきもずっとお話を聞いていて、景観という外から入る、それで例えばさっき久世議員が成功例を言いました。彼のビジネスの成

功はインスタ映えなんですよ。インスタ映えでお客さんを取っているんですよ。若い人がぼんぼん来ているわけですよ。それから、西村先生のご指摘は外の景色だけでいいのかということですが、やっぱり景色が入り口になってソフトウエアというのかな、見えない文化がまず入り口になるんじゃないかなという気がしているんですよ。そこのところもやっぱり議論したいなと思っています。

それから、さっき佐分先生の本曾川の話、とても面白く聞いたんですけどもね、実際、僕、現場で船頭たちを見ているんですけど、もうライン下りはできません。船頭たちはもう絶滅危惧種ですから、本当の話は。ですから、違うライン下りをリメイクしないと。今までのかつてのライン下りをもう一遍そのままはできません、全くリメイクしないと、川遊びは。それを伝統的な日本の美しさ、川の美しさを保ちつつ、どういうふうに欧米人の気持ちを捉えるかということが大事かなと思っています。繰り返しますが、一番基本はインディゴです。と思っています、僕は。

西村会長

ありがとうございます。

インディゴに来る人に満足を与えるようなものでないといけないというところがすごく大きいということですね。

石田委員

はい、そうです。

西村会長

ほか、いかがでしょうか。

川委員、どうぞ。

川委員

愛知県の川です。

今、石田委員からもインディゴのお話が出たんですが、ちょっと確認のところで申し訳ございませんが、資料5の6ページのところで、そちらにインバウンドのお話が下のところに書いてあります。アジア系、欧米系に分けて差別化ということですが、前任の武田のほうからもお話をしたかもしれませんが、愛知県もこれからアジアだけじゃなく欧米のほうに向けても誘致、誘客を進めたいということでお伝えをしたかと思えます。

愛知県の現状ですが、今アジアが9割近くと、欧米豪についてはもう一割を下回っているというところで、一方で今回の戦略の中で7ページの後ろ、体系整理のところでは、真ん中のところでアジア70、欧米30という数字を出されておまして、これ非常に高い野心的な目標だろうと思います。多分、一つモデルとしては高山市ですね、高山が今やっぱり2019年で3割を超える欧米豪

からのお客さんがあったということなのですが、これもかなり歴史を持ってやってきてここまで来たというようなことも聞いております。そういう状況の中で、愛知県も欧米豪のほうを進めたいということで一緒にやっていきたいというふうに思っています。

今、我々のところでやっているのはアメリカ、フランス、オーストラリア、これ旅行会社なんかでも観光レクという形で事務所を持ってもらって、実際に愛知県のPRを現地でもしてもらっているんですが、こういったこともまた活用していただければいいかなと思いますし、それからこの後、方針別の施策なんかも書いていかれるかと思うんですが、そのところで具体的なことを書いていただければと。我々のほうでできることはしていきたいと思いますので、そちらもまた具体的に次回打ち出していただければなと思います。

それからもう一点なのですが、その下の先ほどのインバウンドの下のところにあるMICEのMIをターゲットにすると、これ非常にいい観点かなと思います。愛知のMICE、交通機関とか視覚を考えると名古屋に集中をしているんですが、企業がたくさん集積している、様々な企業がある犬山らしいMIというところにターゲットを置いていただいたというのは、非常にこれはまたいい目のつけどころであろうと思います。こちらについても、愛知県のほうも協力できることはしていきますので、しっかり施策を打ち出していただいて、今回は重点プロジェクトの8ページのところに1つチャレンジする重点施策ということで書かれておりますが、これについても期待をしておりますので、前向きな具体的な取組を一つ書いていただけると我々のほうもありがたいなと。必要だったら、また愛知県にご相談をいただければと思います。以上でございます。

西村会長

ありがとうございます。高い目標だということをおっしゃっていただきました。

ほか、いかがでしょうか。

石田委員、お願いいたします。

石田委員

すみません、何遍も。ちょっと思い出したものですから。

実は、部会長の服部さんは映画づくりのオーソリティーなんです。犬山は実は犬山フィルムコミッションがあるんです、市民運動として。明治村は有名な撮影ロケの場所ですから、それ市民が大分フィルムコミッションに協力しているんですよ。だから、これもさっき言いました映像から入っていく文化で、フィルムコミッションもどこかにキーワードとして書いておいてほしいですね。

西村会長

ありがとうございます。フィルムコミッションのこともちゃんと入れてほしいと。

そろそろ、もう少し具体的なほうまで含めて、重点プロジェクトのほうまで含めて何かコメントがあればと思います。

いかがでしょう。こんなものでいいのか、これはこういうふうにしたほうがいいんじゃないかというのがあればと。

はい、どうぞ、久世委員。

久世委員

重点プロジェクトの順番で重点度が変わっているのかは分かりませんが、一番最初に書いてある遊園ルネサンスのところのチャレンジする重点施策で、木曾川河畔整備のところのハードの整備、ここで例えば朝市をパワーアップして常設的に飲食店のようなインフラ整備ができればなあということを議会でも議論していたことがあるんですが、それは本当に可能なんでしょうか。あんまり無理なことがここに書いてあってもいけないので。ここに書いてあることは全部実現可能だということでもいいんでしょうか。ここは愛知県の県道のたしか歩道扱いになっているんですかね。なので、道路関係の規制の制約を受けるというふうに今までは聞いていたんですが、その辺りは可能なんでしょうか。

西村会長

すみません、小池さん、事務局のほうで答えてください。

事務局

久世委員ありがとうございます。

まず、ちょっと認識というか、たしか河畔沿いというのは県道から市道に変わっております、さらに今後、都市計画道路から一般道に変わるというような話もたしか出ているようなふうに聞いております。すみません、また正確なところは確認をいたしますが、県道ではないのは確かでございます。

今、ターゲットとしているのは、久世委員もご存じのとおり、白いタイルの歩道の部分、幅員が5メートルぐらいありますかね、平均すると。あの部分に桜の木があつて歩道としては非常に広い空間なんです、なかなか先ほども説明のときに申し上げたとおり経年によって大分ぼろくなっているというのがあります。ここを何とかしたいというところがあります。

利活用の具体的な内容というのをこれからどこまで書けるかというのは正直、今まさにおっしゃったとおり、各種法規制もあります。何と云っても、道路法に基づく道路ですので、市道であっても県道であっても様々な規制があります。普通に考えると建物とかは建たない場所です。ですので、であるならばどういったものが法の中で、あるいは特区だとか道路法の特例なんかもありま

すし、そういったところはこういった内容であれば整備が可能なのかというの  
も、もちろん確認した上で最大限可能な内容を書きたいなど。

ひょっとすると、イメージ図とかそういったものはまずかなり、ごめんなさい、これ僕の個人的な意見になるので事務局として発言が適切かは分かりませんが、夢みたいなものを書きたいというのは正直あります。夢のようなものを、もちろん夢といっても荒唐無稽なものではありません。ただ、こうなっていたいなという夢をまずそこに描き、その中でどこまで実現していくかというのは、まさに我々市あるいは関係者との協働によるチャレンジだなどと思っていますので、ちょっと安全なものだけ書いて何となく歩道をきれいにするよというよりは、もうちょっと踏み込んで書けるといいなというのは、今この8月の時点での印象になります。ごめんなさい、ちょっと答えになっていないかもしれませんがそういうところですよ。

利活用としては、やっぱりきれいな歩道が整備できてよかったねで終わりではなくて、やはりそこである意味、朝市をもう少し拡充するような形で、夜も含めた商業の場にしたいというのはあります。それが市民の方の憩いにもつながりますし、もちろん観光客にとっても非常に充実できる場所になると思うので、そこで何か店舗的な展開、商業的な展開、それが仮設なのか常設なのか、常設だとして固定された建物も含むのかというのは、まさにチャレンジの部分だと思いますが、私はきれいな景観をめ度ながら商業的な展開、ちょっとお酒を飲んだりとか、おいしいフードが食べられてすばらしい景観、お城を含めた景観が楽しめるという、そういう空間をぜひともつくり上げたいなと思っておりますので、ごめんなさい、ちょっと答えじゃないですけど、そういったものを今のところはイメージしています。久世委員、すみません。

西村会長

ありがとうございます。

一歩踏み込んだことを課題もあるかも、今のプロジェクトはこの順番が重要性の順番なのかというご質問もありましたけど、これはどうでしょうか。

事務局

西村先生、ごめんなさい。もう一度お願いします。

西村会長

今の久世委員のご質問の中に、1から7までというのは重要な緊急の、順番は意味があるのかということもコメントの中にあっただかと思うんですが、それはどうでしょう。

事務局

特にありません。

7つとも重要なものだと思いますが、ただ水景、城景、緑景というのに

重ねていますので、その順番として水景、城景、緑景というような形に、順番になっているような仕立てにはなっていると思います。

西村会長

なるほど。水景が最初に来るような感じになっているわけですね。

ほか何か、この重点プロジェクトに関わってございますでしょうか。

よろしいですか。

なければ何か、何でも結構ですが、何か言い残したこととか、これだけは言っておきたいというのがあればと思いますけどいかがでしょうか。

もしくは、専門部会のほうでも、これだけはちょっと確認しておきたいというのがあれば、提起していただいても構いませんけどよろしいですか。

どうぞ、柴田委員、お願いいたします。

柴田委員

すみません、柴田です。

今まで皆様の議論を聞かせていただいて非常に参考になりまして、一言最後に申し上げたいと思うのが、観光戦略ということの中で観光まちづくり、犬山の将来、犬山らしさを磨きずっといたくなる、みんなでつくる、みんなのための観光という中の視点で、市民のやっぱり満足度を高めることが観光客へのおもてなしにもつながりますし、先ほど観光まちづくりのプラットフォームのところで、いかに市民の皆さんに関わっていただくかということにもつながってくると思いますので、いかに先ほどの重点プロジェクトの中で遊園ルネサンスの中で小池さんがおっしゃったように、観光客だけでなく市民がこの犬山の観光の取組で満足度が高まれば、より多くの市民の皆様が当事者としてこの犬山の観光を盛り立てていこうという意識を持つと思いますので、そういった市民の満足度を高めるという視点も大事にこれから議論を進めていきたいなと考えております。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

そういうものをうまくKPIか何かで入れられるといいですね。アンケートを取れば、そういうことが経年変化も追えそうなものですからね。ありがとうございます。

ほか何かありますでしょうか。よろしいですか。

なければ、ほぼ時間も2時間近くになってきましたので、この辺で今日の議題を終了するというところでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

西村会長、ありがとうございました。

委員の皆様、大変貴重な意見ありがとうございます。私のほうも、この戦略をつくるに当たって、それこそ本当に絵に描いた餅で終わるわけにはいかないと思っています。当然、キャンペーンの在り方であったりだとか、これはすぐ変わるものではないかもしれませんが、ただ犬山をどういうふうに見せていこうかと、どういう犬山を見せていくんだというようなところで、いろいろやり方等々は考えていきたいというふうに思っていますので、よろしく願います。

それでは、次第の最後「その他」でございます。次回の日程についてですが、担当から説明させていただきます。

(事務局説明)

事務局

次回につきましては調整中ということですので、決まり次第、改めて文書で正式に依頼をさせていただきたいと思えます。

それでは、これをもちまして第3回犬山市観光戦略会議を閉じさせていただきます。戦略策定に向け、今後も引き続きよろしく願います。以上です。終わります。